

中間貯蔵施設への除染土壌等の輸送に係る検証報告(平成28年11月)①

- 中間貯蔵施設への除染土壌等の輸送については、昨年度のパイロット輸送の検証を踏まえた対策や改善策を講じつつ、実施した対策等が想定どおり機能したか、住民や作業員等の安全が確保されたか、円滑に作業を実施できたか等を確認しながら実施している。
- 今後、「当面5年間の見通し」に沿って輸送量を段階的に拡大することとしており、29年度の輸送に向けた輸送実施計画の更新に先立ち、今後の対策や改善策の具体化につなげるべく、平成28年4月以降に実施してきた輸送の検証を行い、有識者からのご意見もいただいた上で報告を取りまとめた。

検証結果の総括

- 実施した対策等は概ね想定どおり機能し、また、日々の輸送を実施する中で発見された課題や中間貯蔵施設環境安全委員会等における指摘等を踏まえ、関係機関との連携の下、道路補修等の交通安全対策、道路交通情報の集約、事故を想定した訓練の実施、総合管理システムの機能改修、放射線モニタリング情報のリアルタイム公開等の改善策を随時講じることで、安全かつ確実な輸送を実施できていると評価できる。
- 今回の検証により、今後さらに検討、実施が必要な対策や改善策が明らかになった(次頁参照)。これらを踏まえ、今後の段階的な輸送量の増加に応じて検討を進め、随時、輸送実施計画等に反映させつつ、具体的な改善策を継続的に講じていくことが必要である。

- 今後の輸送については、引き続き検証を行いつつ、必要な対策や改善策を実施しながら、より安全かつ確実に実施するとともに、輸送量の拡大に対応すべく効率的に進めていく必要がある。

中間貯蔵施設への除染土壌等の輸送に係る検証報告(平成28年11月)②

必要な対策や改善策

(1) 積込場からの搬出

積込場の要件の確保、含水率の高い除染土壌等への対応、現場発生材の処分ルートの開拓や再生利用の検討などが必要。

安全性と確実性の確保を前提として、積込場搬出時の輸送車両周辺の空間線量率の測定の効率化などが必要。

(2) 輸送

今後整備される受入・分別施設や仮設焼却施設に直接搬入される場合に、遮水性又は防水性の容器への詰め替えに代えて行う輸送時の水の漏れ出し防止措置を講じることが必要。

休憩施設の確保、ハード面(道路補修等)及びソフト面(教育・研修等)の道路交通対策の適切な実施、緊急時対応に向けた関係機関との連携強化などが必要。

(3) 輸送管理

輸送量の増加に向けた総合管理システムのさらなる改善の検討などが必要。

(4) 施設

安全性と確実性の確保を前提として、施設退出時の輸送車両のスクリーニングの効率化などが必要。

(5) 分野横断的事項

中間貯蔵事業の円滑な推進に向け、自治体や地域住民の方々の理解と協力を得るための一層の取組を進めることなどが必要。

輸送車両等のわかりやすい表示方法について更なる検討が必要。